

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年8月9日

【四半期会計期間】 第92期第1四半期(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

【会社名】 アサガミ株式会社

【英訳名】 ASAGAMI CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 木村 健一

【本店の所在の場所】 東京都千代田区丸の内三丁目1番1号

【電話番号】 03 6880 2200(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員経理部長 北川 敏行

【最寄りの連絡場所】 東京都千代田区丸の内三丁目1番1号

【電話番号】 03 6880 2200(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員経理部長 北川 敏行

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第91期 第1四半期 連結累計期間	第92期 第1四半期 連結累計期間	第91期
	自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (千円)	9,505,059	9,692,667	44,345,538
経常利益 (千円)	40,105	199,151	1,474,426
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失() (千円)	69,413	36,205	818,903
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	121,928	70,830	1,137,607
純資産額 (千円)	10,737,664	11,951,253	11,997,147
総資産額 (千円)	55,065,118	54,248,836	54,019,551
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は1株当たり四半期純損失 金額() (円)	4.90	2.56	57.86
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	19.3	21.8	22.0

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第92期第1四半期連結累計期間及び第91期は潜在株式がないため、また第91期第1四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失のため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済・金融政策への期待感から企業や家計のマインドが急速に改善し、景気回復への期待が高まっております。しかしながら、企業は設備投資に対して慎重な姿勢を崩しておらず、雇用・所得環境も低迷していることから、実体経済が好転するまでには至らず、先行き不透明な状況で推移いたしました。

物流業界ではインターネット通販市場の成長により、宅配貨物取扱個数は増加傾向にあるものの、倉庫、トラック輸送および港湾運送における扱ひ量は横這いとなりました。不動産業界では、東京地区のオフィスビルにおいて空室率が改善する兆しがみられるものの、平均賃料は低迷しております。新聞印刷業界では広告掲載量は前年並みとなるも発行部数は減少傾向にあるなど厳しい状況が続いております。

このような経営環境に対応すべく、当社グループは、原点である経営理念の「顧客に対する最高のサービス」、「適正利潤の追求」、「真に働きがいのある会社」に立ち返り、取組みを行ってまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は9,692百万円（前年同四半期比2.0%増）、営業利益は278百万円（前年同四半期比182.8%増）、経常利益は199百万円（前年同四半期比396.6%増）、四半期純利益は36百万円（前年同四半期は四半期純損失69百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

物流事業

当事業のうち、倉庫部門につきましては、物流センターにおいて倉庫保管、荷役の取扱量が減少し、売上高は470百万円（前年同四半期比14.6%減）となりました。港湾フォワーディング部門につきましては、港湾作業の取扱量が増加したものの航空貨物量が減少し、売上高は1,601百万円（前年同四半期比0.8%減）となりました。運輸部門につきましては、トラック輸送の取扱量が増加し、売上高は2,851百万円（前年同四半期比6.3%増）となりました。3PL（サードパーティーロジスティクス）部門につきましては、物流センターの取扱量が減少し、売上高は335百万円（前年同四半期比4.3%減）となりました。この結果、当事業の売上高は5,258百万円（前年同四半期比1.2%増）、セグメント利益は434百万円（前年同四半期比9.7%増）となりました。

不動産事業

当事業につきましては、堅調に推移し、売上高は911百万円（前年同四半期比2.1%増）、セグメント利益は409百万円（前年同四半期比6.4%増）となりました。

印刷事業

当事業につきましては、婚礼部門による商品単価の上昇や受注件数の増加により、売上高は3,828百万円（前年同四半期比3.5%増）、セグメント損失は74百万円（前年同四半期はセグメント損失187百万円）となりました。

その他

当事業につきましては、建築工事関連において受注が減少し、売上高は273百万円（前年同四半期比11.5%減）、セグメント利益は7百万円（前年同四半期比80.8%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ229百万円増加し、54,248百万円となりました。これは主に、現金及び預金が518百万円、繰延税金資産が118百万円増加し、受取手形及び売掛金が203百万円、減価償却費等により建物及び構築物が197百万円減少したことによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ275百万円増加し、42,297百万円となりました。これは主に、流動負債のその他に含まれる未払費用が661百万円、社債の発行により社債が623百万円、短期借入金が462百万円増加し、未払法人税等が372百万円、賞与引当金が275百万円、長期借入金が695百万円減少したことによるものであります。

純資産合計は、利益剰余金が77百万円減少し11,951百万円となり、自己資本比率は21.8%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	48,720,000
計	48,720,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年8月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	14,180,000	14,180,000	東京証券取引所 市場第2部	単元株式数は1,000株 あります。
計	14,180,000	14,180,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年6月30日		14,180,000		2,189,000		32,991

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 26,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,120,000	14,120	
単元未満株式	普通株式 34,000		
発行済株式総数	14,180,000		
総株主の議決権		14,120	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が9,000株(議決権9個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が933株含まれております。

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) アサガミ株式会社	東京都千代田区丸の内 3 - 1 - 1	26,000		26,000	0.2
計		26,000		26,000	0.2

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、公認会計士 本橋清彦氏及び公認会計士 萩野うたみ氏による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,812,857	4,331,208
受取手形及び売掛金	3 6,233,238	3 6,029,461
商品及び製品	62,847	62,254
仕掛品	21,619	51,113
原材料及び貯蔵品	803,731	890,061
繰延税金資産	274,818	393,020
その他	734,773	676,390
貸倒引当金	15,565	12,788
流動資産合計	11,928,321	12,420,722
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,175,380	11,977,466
機械装置及び運搬具（純額）	1,638,916	1,516,560
土地	20,295,083	20,295,083
その他（純額）	1,057,714	1,114,315
有形固定資産合計	35,167,094	34,903,425
無形固定資産		
のれん	18,333	15,583
借地権	1,118,526	1,118,526
その他	187,771	173,721
無形固定資産合計	1,324,631	1,307,831
投資その他の資産		
投資有価証券	2,475,655	2,533,388
長期貸付金	914,780	903,759
繰延税金資産	548,800	520,593
その他	1,719,998	1,719,825
貸倒引当金	59,731	60,711
投資その他の資産合計	5,599,503	5,616,856
固定資産合計	42,091,229	41,828,113
資産合計	54,019,551	54,248,836

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,823,680	3,761,146
短期借入金	2 8,443,244	2 8,905,750
1年内償還予定の社債	1,093,280	1,213,329
未払法人税等	593,049	220,116
賞与引当金	429,120	153,876
P C B 廃棄物処理費用引当金	2,000	2,000
その他	1,930,223	2,515,401
流動負債合計	16,314,598	16,771,619
固定負債		
社債	1,025,000	1,648,438
長期借入金	2 17,637,604	2 16,941,821
繰延税金負債	460	2,563
再評価に係る繰延税金負債	2,962,964	2,962,964
退職給付引当金	1,441,903	1,443,642
役員退職慰労引当金	1,005,789	975,887
長期預り金	1,315,627	1,272,173
その他	318,455	278,472
固定負債合計	25,707,805	25,525,962
負債合計	42,022,403	42,297,582
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,189,000	2,189,000
資本剰余金	32,991	32,991
利益剰余金	4,352,686	4,275,667
自己株式	9,745	9,745
株主資本合計	6,564,933	6,487,914
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	510,934	545,708
土地再評価差額金	4,800,124	4,800,124
その他の包括利益累計額合計	5,311,059	5,345,833
少数株主持分	121,155	117,505
純資産合計	11,997,147	11,951,253
負債純資産合計	54,019,551	54,248,836

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	1 9,505,059	1 9,692,667
売上原価	1 7,706,242	1 7,768,002
売上総利益	1,798,816	1,924,665
販売費及び一般管理費		
役員報酬	121,631	121,506
給料手当及び賞与	634,490	616,023
賞与引当金繰入額	63,643	68,428
退職給付費用	49,214	31,220
役員退職慰労引当金繰入額	15,531	12,150
貸倒引当金繰入額	50	1,686
その他	815,963	795,638
販売費及び一般管理費合計	1,700,526	1,646,653
営業利益	98,290	278,011
営業外収益		
受取利息	7,150	6,756
受取配当金	34,923	38,353
貸倒引当金戻入額	7,169	3,479
その他	27,427	28,943
営業外収益合計	76,670	77,531
営業外費用		
支払利息	127,633	102,892
社債利息	3,434	5,443
社債発行費	-	41,329
その他	3,787	6,725
営業外費用合計	134,855	156,391
経常利益	40,105	199,151
特別利益		
固定資産売却益	2,560	15,651
特別利益合計	2,560	15,651
特別損失		
固定資産除却損	1,012	2,288
投資有価証券評価損	1,076	-
特別損失合計	2,088	2,288
税金等調整前四半期純利益	40,576	212,515
法人税、住民税及び事業税	249,277	283,763
法人税等調整額	140,900	107,304
法人税等合計	108,376	176,458
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	67,799	36,056
少数株主利益又は少数株主損失()	1,613	149
四半期純利益又は四半期純損失()	69,413	36,205

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	67,799	36,056
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	54,128	34,774
その他の包括利益合計	54,128	34,774
四半期包括利益	121,928	70,830
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	123,541	70,979
少数株主に係る四半期包括利益	1,613	149

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

連結子会社以外の会社の金融機関からの借入に対して債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
(株)オーエコーポレーション	796,250千円	788,500千円

2 財務制限条項

(1) 当社の長期借入金のうち、1,396,500千円(1年内返済予定分を含む)には、下記のいずれかに抵触した場合、該当する債務について期限の利益を喪失する財務制限条項が付されております。

平成25年3月期決算以降の各年度決算期の末日における当社の貸借対照表及び連結貸借対照表において、純資産の部の合計額を、平成24年3月期決算期の年度決算期の末日における純資産の部の合計額又は前年度決算期の末日における純資産の部の合計額のいずれか大きいほうの75%以上に維持すること。

平成25年3月期決算期以降の各年度決算期の末日における当社の損益計算書及び連結損益計算書において経常損益の金額を2期連続してマイナスとしないこと。

(2) 連結子会社であるアサガミプレスセンター(株)の長期借入金のうち247,500千円(1年内返済予定分を含む)には、下記のいずれかに抵触した場合、該当する債務について期限の利益を喪失する財務制限条項が付されております。

各年度決算期の末日における当社の損益計算書及び連結損益計算書の経常損益の金額をマイナスとしないこと。

各年度決算期の末日におけるアサガミプレスセンター(株)の貸借対照表の純資産の部の合計額を平成21年3月期決算末日または前年度決算末日の純資産の部の合計額のいずれか大きいほうの70%以上維持すること。

各年度決算期の末日におけるアサガミプレスセンター(株)の損益計算書の税引後当期純利益の金額をマイナスとしないこと。

3 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。なお、当第1四半期連結会計期間末日が、金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形	13,282千円	7,086千円

(四半期連結損益計算書関係)

1 売上高の季節的変動

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)及び当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

一部の子会社の売上高は、通常の営業形態として下期に受注が集中するため、第1四半期連結累計期間の売上高及び営業費用が下期と比較して著しく少なくなる傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	433,756千円	397,054千円
のれんの償却額	83,472千円	2,749千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	113,225	8	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	113,224	8	平成25年3月31日	平成25年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	物流事業	不動産事業	印刷事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,196,671	500,864	3,698,549	9,396,086	108,972	9,505,059
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,698	392,405	279	394,383	200,639	595,022
計	5,198,369	893,270	3,698,828	9,790,469	309,612	10,100,081
セグメント利益又は損失()	395,602	384,652	187,841	592,413	3,992	596,405

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建築工事業及び人材派遣事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	592,413
「その他」の区分の利益	3,992
セグメント間取引消去	2,188
全社費用(注)	500,304
四半期連結損益計算書の営業利益	98,290

(注) 全社費用は、本社の管理部門に係る費用であります。

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	物流事業	不動産事業	印刷事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	5,257,230	518,608	3,828,274	9,604,112	88,555	9,692,667
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,651	393,206	325	395,183	185,362	580,545
計	5,258,882	911,814	3,828,599	9,999,296	273,917	10,273,213
セグメント利益又は損失()	434,026	409,352	74,253	769,125	7,217	776,343

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建築工事業及びグループ内の業務請負事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	769,125
「その他」の区分の利益	7,217
セグメント間取引消去	2,335
全社費用(注)	500,666
四半期連結損益計算書の営業利益	278,011

(注) 全社費用は、本社の管理部門に係る費用であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()	4円90銭	2円56銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	69,413	36,205
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()(千円)	69,413	36,205
普通株式の期中平均株式数(株)	14,153,230	14,153,067

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、当第1四半期連結累計期間は潜在株式がないため、また前第1四半期連結累計期間は1株当たり四半期純損失のため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月 7日

アサガミ株式会社
取締役会 御中

本橋公認会計士事務所

公認会計士 本 橋 清 彦 印

萩野うたみ公認会計士事務所

公認会計士 萩 野 う た み 印

私たちは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアサガミ株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私たちの責任は、私たちが実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。私たちは、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

私たちは、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

私たちが実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アサガミ株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と私たちとの間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。